平成３０年度　自己評価書

学校名	和歌山市立西脇小学校
校長氏名	田野岡　教彦
作成日	平成31年（2019年）２月　28日

１　教育目標

心身ともに健康で、自主的に物事を考え自他の人格を尊重し、互いに協力して実践していく子どもを育てる。

２　本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・全国学力・学習状況調査及び県学習　到達度調査で基本問題の正答数が市・県平均を上回る ・学習が楽しくわかる授業、子ども主体の授業を実践した授業と感じる（児童・教師95%）	・学校が楽しいと感じる（児童100%） ・「私たちの道徳」「心のとびら」「希望へのかけはし」の活用100% ・いじめの解消率継続100%	・朝ごはんを食べた（児童100%） ・積極的に運動を行い体力向上計画し、運動能力を向上する取り組みを実践した（教師90%）	・学校の様子がよく伝わった（保護者95%） ・中学校区で接続、連携した取組を具体的に実践できた（教師90%）
重点目標【P】	・読み・書き・計算等の基礎学力の充実を図る。 ・自分の考えをもち、表現できる子を育てるために、授業のねらいに迫る話し合い活動を取り入れる。教師の授業力向上を図る。 ・一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。	・挨拶のできる子どもを育てる。 ・規範意識を高める。 ・心をゆさぶる感動体験や地域の方々との交流活動を計画的に実施する。 ・人や自然とのかかわりを大切に考えた実践を工夫する。 ・道徳教育・国際教育・読書活動等の充実を図る。	・体力向上の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・予見義務・危機回避能力の　育成 ・ブラッシング指導や薬剤師指導による薬の知識についての出前授業や保護者アンケートによる学校医に聞きたい質疑応答や保護者参画による学校保健委員会など保護者も巻き込んだ健康指導	・情報を積極的に発信する。 ・西脇地域共育コミュニティ・コミュニティスクールのより一層の充実を図る。 ・保護者や地域の人材を活用し地域に開かれた学校づくりに努める。 ・学校開放週間を充実させる。 ・学校運営協議会との連携を深め、よりよい学校運営に努める。
取組の状況【D】	・基礎学力の定着を図るために、授業の工夫、西脇タイムの利用、家庭学習の充実を図った。 ・書く活動の重視や話し合いを必要とする課題の設定を行った。 ・個の実態に合わせ、個別指導や取り出し指導、ＴＴ指導等の学習指導を行った。	・学校開放週間において、人権学習の授業を位置づけた。 ・不審者侵入訓練・水難防止訓練等関係機関指導の下実施した。 ・地域の学習材を活用した体験学習を全学年において実施することができた。 ・低学年を中心に読書活動に広がりが見えてきた。善行の児童にはプチ表彰を行うこのことにより全児童の学校教育活動が向上した ・ＡＬＴの授業を３年生から６年生までに実施した。	・地域学習や奉仕作業を通し　協働力・ボランティア精神の育成や健全な心やコミュニケーション力、体力の向上を図る ・「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する ・避難訓練や交通安全教室・防犯教室（非行防止薬物乱用防止・情報モラルを含む）計画的 に行い、危機回避能力を育成した。	・各種通信（学校便り・学年便り・保健便り・学級通信等）やＨＰにおいて、積極的に学校の教育活動を地域や保護者に知らせた。 ・地域の方に社会科のふるさと学習やキャリア教育、読み聞かせ、生活科や総合的な学習の時間等の授業、、クラブ活動、学校農園の指導等に協力していただいた。 ・ありがとう集会等では地域のみならず、より密接に広域に広げることができた ・避難時における児童の受渡し訓練も実施した。
取組の成果と課題（評価結果【c】）	・校内研究授業や参観授業（市・県教委・指導員・管理職等）を通して、研究主題に迫る実践ができるよう意欲的に取り組んでいる。県内外研修の機会を増やしよいところは積極的に取り入れるように伝達講習を図る。 ・様々な工夫を行い一定の向上が見られるがまだまだ高学年においては、国語・算数を中心に基礎的な学力が不足している子どもが多い。	・地域学習では、地域について学び、知り、地域に誇りを持つ子どもを育てる良い機会になり、より広域に広がっている。 ・豊かな体験活動や様々なゲストティーチャーの授業は、子どもたちの心を耕すよい機会となっている。 ・読書に親しむ児童が増加している。 ・校門での挨拶実施により、前年より自ら進んで挨拶できる子どもが増えたが、まだまだ少ない。	朝の清掃活動や奉仕作業など一生懸命おこなうことが出来た。 ・自分自身の健康安全に注意する意識を醸成したい（食事の知識や睡眠、身体のケア、手洗いうがい、教室への土の持ち込みなど） ・ブラッシング指導や薬剤師指導による薬の知識についての出前授業や学校保健委員会など保護者も巻き込んだ健康指導は子供の健康を考えるために効果があった。	・学校便りは見やすいように学習活動は写真を用いて掲載した。また、ＨＰには学年行事を随時投稿するようにしたため、保護者からは、教育活動がわかりやすいとの評価をいただいている。又、コミュニティスクールやお知らせなど活動が見やすくなるように工夫したり、行事をリアルタイムにアップできる試行した。メディア等にも多くの情報発信を積極的ににに行った ・地域の方々との交流や指導していただく時間を多く持つことができた。 ・より多くの保護者に学校行事に参加してもらえるよう、一定の工夫は効果があったが、さらによりよい手立てを考える必要がある。
次年度に向けての改善方法【A】	・家庭との連携を深め、家庭学習（自主学習）や読書時間の確保に努める。 ・すべての子どもに学力保障をするために支援方法や個別指導の在り方を工夫する。 ・教師力・授業力向上のため積極的な校内外研修・講演会の機会をさらに増やし伝達講習で全教職員の共通理解を図る。	・子どもたちの規範意識の醸成・向上をめざし、学校と家庭・地域の連携・協働を進める取組を推進する。 ・挨拶運動は自主的になるように児童会とタイアップして行う。 ・規範意識を高めるための清掃活動・集会や道徳の授業を工夫する。 ・古くても手入れをよくして大切に使う心を醸成する。	・すべての行動や災害に対しての予見義務・危機回避能力の育成と体力の醸成 ・相手のバックワードを予見できる健全な精神と体力を養う（心技体の一致） ・あらゆる角度・場面を利用して子どもの健康を育成していく	・ＨＰは、子どもたちの活動のみならず保護者への啓発を行う。また、コミュニティ・スクール及びＰＴＡ活動を広報する枠を設け、発信できるようにする。 ・アンケートを様々な機会に実施し、保護者や地域の声を聴く。 ・コミュニティ・スクールを効果的に行い、西脇地区共育コミュニティと連携を図りより開かれた学校をめざす。

３　その他の課題

・東校舎２階・３階の床を校務員が修繕しているものの、微妙な段差が何か所もでき、子どものけがにつながる恐れが大きいので、床の全面改修に向け、施設課に今後も強く要望していく。
・老朽化した場所や危険な場所を早急に察知できる力を教職員に醸成し、児童には古くても手入れをよくして大切に使う心を醸成する。改修できるところは早急に利便性に富む改修を行う、又、施設の向上を要求していく。
・図書室の蔵書を増やすために、地域に発信するとともに、ＰＴＡと連携し、アルミ缶回収をその資源にあてる。
・ICT/IOTの活用と導入を進める。
・施設改善のため教育委員会に積極的要望を行う
・コミュニティースクールの向上のためのネットワークつくりと教職員の交渉力向上を目指す。